

2023年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2024年4月18日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 大学院マネジメント研究科・教授
(氏名) 武田 寛

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	企業の持続可能成長率を巡る理論と実践					
	合計	使用内訳 (単位:円)				
交付決定額	600,000	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
執行額	525,666	0	270,833	0	3,253	251,580
執行残額	74,334					
共同研究者	所属・職名		氏名		役割分担等	
			なし			

研究分野: SDGs

キーワード: 持続可能な経済成長と雇用 (目標8)

研究成果の概要 (和文)

企業の持続可能成長率を巡る理論と実践について研究を行い、以下の成果を得た。第一に、持続可能成長率を巡る理論として、財務比率との関係、売上高成長率との関係と企業の財務行動、キャッシュフローとの関係について整理した。第二に事例研究としてアメーバ経営を実践している京セラ株式会社の経営について、持続可能成長率を中心に分析と考察を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

事例研究はファイナンスにおいてはあまりないので、研究成果はファイナンスや経営学の発展や、本学の学術研究の高度化への寄与度が高い。またファイナンス以外の他の経営研究との相乗効果が期待できる。

SDGsの目標8 (持続可能な経済成長と雇用) 達成のためには、企業の持続可能な成長が不可欠であるため、本研究はSDGs目標8への関連度が高く、社会的意義がある。

1. 研究の背景

SDGsの目標達成のためには、持続可能な企業活動が欠かせないが、その知見は十分に蓄積されているとはいえない。

本研究では、ファイナンスにおける「持続可能成長率」の概念を中心に、先行研究調査ならびに企業の事例研究によって、この課題について研究する。持続可能成長率は、企業が内部での再投資によって持続できるフリーキャッシュフローや利益の成長率のことで、地球レベルでは、環境を破壊せず、人類が使用可能な資源を用いて持続できる成長率である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、企業の持続可能成長率を巡る理論と実践について研究することである。明らかにしようとする点は、以下のとおりである。

- 1) 持続可能成長率と売上高成長率の関係と、企業の財務行動
- 2) 持続可能成長率と財務比率の関係
- 3) 持続可能成長率とキャッシュフローの関係
- 4) 持続可能成長率と経営理念の相互関係

3. 研究の方法

上記の4点について、持続可能成長率を巡る企業の事例研究を実施した。

事例研究の対象企業は、京セラを選定した。理由は、①1980年代以降の日本の安定成長と低成長の時代において、京セラは、例外的な成功事例と評価する先行研究があること、②京セラは、経営理念を重視する企業として知られていることである。

4. 研究成果

研究成果は研究論文としてまとめて、「企業の持続可能成長率を巡る理論と実践」『北九州市立大学マネジメント論集』第17号、pp. 19-37として2024年3月に刊行した。

研究成果の概要は以下のとおりである。

企業の持続可能成長率を巡る理論と実践について研究を行い、以下の成果を得た。第一に、持続可能成長率を巡る理論として、財務比率との関係、売上高成長率との関係と企業の財務行動、キャッシュフローとの関係について整理した。第二に事例研究としてアメーバ経営を実践している京セラ株式会社の経営について、持続可能成長率を中心に分析と考察を行った。